

平成20年度当初予算案発表資料 (平成20年2月8日)

～水と歴史のハーモニー～ 人が輝く いきいき すみだ

- 1 「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
 - 1-① 墨田区観光振興プランの推進
 - 1-② 大江戸両国フェスタ(仮称)の開催
 - 1-③ 向島・歴史と観光のまちづくりの推進
 - 1-④ すみだ郷土文化資料館 開館10周年記念事業の開催
- 2 地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくる
 - 2-① 曳舟駅周辺地区の整備-①曳舟駅前地区再開発-
 - 2-② 曳舟駅周辺地区の整備-②京成曳舟駅前東地区再開発-
 - 2-③ 京成押上線立体化の推進
- 3 新しい事業が起き、人が集まる「すみだ」をつくる
 - 3-① 地域ブランド戦略の推進
 - 3-② 産学官連携の推進
- 4 安心して暮らせる「すみだ」をつくる
 - 4-1 災害に強く防犯力が高いまちづくり
 - 4-1-① 緊急地震速報受信機の導入
 - 4-1-② 災害時要援護者対策の強化
 - 4-1-③ 住宅用火災警報器の設置助成
 - 4-1-④ 建築物耐震改修等の支援
 - 4-1-⑤ 地域防犯活動の支援及び環境改善
 - 4-2 誰もがいきいきと暮らせるしくみづくり
 - 4-2-① 子どもショートステイの実施
 - 4-2-② 在宅子育てママ救急ショートサポートの実施
 - 4-2-③ 保育園・私立幼稚園のオートロック設置
 - 4-2-④ 障害児デイサービス施設の整備
 - 4-2-⑤ 障害者生活介護施設の整備
 - 4-2-⑥ 妊婦健診の公費負担の充実
 - 4-2-⑦ 肺炎球菌のワクチン予防接種の助成
 - 4-2-⑧ 在宅リハビリテーション基盤強化
 - 4-3 子どもたちが健やかに育つしくみづくり
 - 4-3-① 幼小中一貫教育の推進
 - 4-3-② 学力向上「新すみだプラン」の推進
 - 4-3-③ 校舎・屋内運動場の耐震化
 - 4-3-④ 学校施設の整備
 - 4-4 環境への負荷が少ないまちづくり
 - 4-4-① 地球温暖化対策地域推進計画の実践
 - 4-4-② 地球温暖化防止設備導入助成制度の新設
 - 4-4-③ 地球温暖化防止区民イベントの開催
- 5 区民と区が協働で「すみだ」をつくる
 - 5-① 協治(ガバナンス)の仕組みづくり
 - 5-② 統合新図書館の整備
- 6 新タワー建設にあわせて実施する主な事業
 - 6-① 北斎館(仮称)の整備
 - 6-② 環境ふれあい館(仮称)の整備
 - 6-③ 観光プラザ(仮称)の整備
 - 6-④ 大横川親水公園の歩行者空間再整備
 - 6-⑤ 新タワー周辺主要道路の景観整備
 - 6-⑥ 吾妻橋防災船着場の整備
 - 6-⑦ 北十間川水辺空間の整備
 - 6-⑧ 景観まちづくりの推進
 - 6-⑨ 区内循環バス導入に向けた調査

1 《「すみだ」らしさの息づくまちをつくる》

件名	墨田区観光振興プランの推進
予算額	60,335千円
主旨	<p>新タワーによる来街者の増加を見据えた新たな観光まちづくりを推進するため、平成16年度に策定した「墨田区観光振興プラン」を平成19年度に改訂したところである。このプランでは「国際観光都市すみだ」の実現を目標に、区内に8つの観光拠点エリアとそれをつなぐ観光軸(周遊軸とタワービュー軸)を形成し、新たな観光ネットワークを構築することを基本戦略としている。</p> <p>これらを効果的に推進するため、平成20年度から先導的なプロジェクトに着手し、各施策別事業を実施する。</p>

1-①

件名	大江戸両国フェスタ（仮称）の開催
予算額	12,000千円
主旨	<p>両国エリアは、平成19年度に改訂した墨田区観光振興プランにおいて、区内の観光拠点エリアの一つとして、「江戸以来の伝統文化を世界に発信するまち」をコンセプトとした観光振興を図っていくこととしている。</p> <p>このため、平成20年は1658年の両国橋架橋着工から350年という節目の年にあたることから、両国の魅力を集大成し「本所両国開基350年」「江戸と両国」をテーマとした「（仮称）大江戸両国フェスタ」を開催することにより、このエリアにおける誘客を図るとともに、賑わいを創出する。</p>

1-②

件名	向島・歴史と観光のまちづくりの推進
予算額	8,000千円
主旨	<p>向島エリアは、平成19年度に改訂した墨田区観光振興プランにおいて、区内の観光拠点エリアの一つとして「新タワーに近く、江戸から昭和の風情を味わえるまち」をコンセプトとしており、それに向けた観光振興策を探る必要がある。</p> <p>この地には、江戸庶民に親しまれた墨堤の桜や隅田川七福神、多くの文人墨客が訪れた向島百花園などの歴史的な観光資源があるとともに、東京の六花街（向島、新橋、神楽坂、浅草、赤坂、芳町）のなかで最大規模を誇る花柳界があり、下町の「粋」を体現する料亭文化が息づく風情のある街でもある。</p> <p>こうした向島エリアにおける資源を活かした「街歩き観光」の振興策や新タワー建設に伴い、予想される諸課題について調査・検討し、「歴史と観光のまちづくり」の方向性を定める。</p>

1-③

件名	すみだ郷土文化資料館 開館10周年記念事業の開催
予算額	5,084千円
主旨	<p>能「隅田川」や歌舞伎の「隅田川物」は、木母寺（堤通2-16-1）に伝わる梅若伝説に由来する世界的に有名な芸能であり、平成19年には音楽家の千住明氏が能オペラ「隅田川」を上演し話題になるなど、近年、特に注目を集めている。そこで、すみだ郷土文化資料館では開館10周年を記念し歴史ある文化の継承と新たな文化の創造を目的として、中世以来、能「隅田川」と梅若伝説をもとに隅田川流域に花開いた文化・歴史を紹介する特別展を中心にした一連の事業を実施する。</p>

1-④

2 《快適で地域に暮らせる「すみだ」をつくる》

件名	曳舟駅周辺地区の整備 —①曳舟駅前地区再開発—
予算額	2,317,800千円
主旨	<p>墨田区北部地域の広域拠点の形成を目指し、京成押上線の立体化事業に合わせたまちづくりを推進する。具体的な取り組みとして、曳舟駅周辺の再開発事業を推進し土地の高度利用を図るとともに、商業・業務機能と都市型住宅の供給をバランスよく配置した複合市街地を形成し、活力と魅力あるまちづくりの推進を図る。</p>

2-①

件名	曳舟駅周辺地区の整備 —②京成曳舟駅前東地区再開発—
予算額	1,269,265千円
主旨	<p>墨田区北部地域の広域拠点の形成を目指し、京成押上線の立体化事業に合わせたまちづくりを推進する。具体的な取り組みとして、京成曳舟駅周辺の再開発事業を推進して土地の高度利用を図るとともに、商業・業務機能と都市型住宅の供給をバランスよく配置した複合市街地を形成し、活力と魅力あるまちづくりを推進する。</p> <p>京成曳舟駅前東地区では、地域の実情に合わせた再開発を段階的に進めるため、地区を第一・第二南・第二北・第三の4つに分けて事業を進めている。</p>

2-②

件 名	京成押上線立体化の推進
予 算 額	402,606千円
主 旨	<p>現在、京成押上線の押上～八広駅区間は、立体化が行われていないことから、踏切による渋滞・事故の発生をはじめとして、地域が分断された状態になっている。</p> <p>このため、鉄道と道路を立体交差化させ踏切を除却することにより、踏切による慢性的な交通渋滞を解消し、鉄道・道路それぞれの安全性の向上を図る。また、高架化された鉄道に沿って環境の保全と円滑な地域内交通の確保を図るために側道を整備する。これらのことにより、これまで鉄道で隔てられていた地域の一体化を実現し、沿線まちづくりの推進を図る。</p>

3 《新しい事業が起き、人が集まる「すみだ」をつくる》

件名	地域ブランド戦略の推進
予算額	12,000千円
主旨	<p>墨田区は、さまざまな業種の製造業が集積する日本有数の「ものづくりのまち」であり、優れた機能性や高感度なデザイン性を有する付加価値の高い製品が生み出されている。</p> <p>そこで、これら墨田区の有するものづくりの力を「すみだブランド（仮称）」製品として内外に広くPRすることにより、「ものづくりのまちすみだ」の対外認知度を高め、区内産業の活性化を図る。</p>

3-①

件名	産学官連携の推進
予算額	50,732千円
主旨	<p>平成14年12月に締結した「墨田区と早稲田大学の事業連携に関する協定」では、それまでの理工学部系を中心とした産学官連携とは全く違う“包括的連携”という画期的な仕組みを導入することで対象範囲を産業分野だけでなく、文化系分野にも広げ、これまでの5年間で地域振興につながる40種類に及ぶ事業を展開してきた。</p> <p>この第1期連携（平成14年12月～平成19年12月）の成果を受けて、区と早稲田大学は同協定の5年間の発展的な更新に合意した。第2期連携（平成19年12月～平成24年12月）においては、協治（ガバナンス）の理念にのっとり、地域と大学が主役となって自主的に活動することが可能な“自走可能な産学官連携モデル”の構築を目指し、一層の地域振興に資する事業を展開する。</p>

3-②

4 《安心して暮らせる「すみだ」をつくる》

件 名	緊急地震速報受信機の導入
予 算 額	23,057千円
主 旨	<p>気象庁は、平成19年10月1日から一般向けに「緊急地震速報」の運用を開始した。この速報は、地震の大きな揺れが来る前に予測震度等を事前に知らせることができるので、この速報を有効に活用することで、地震による被害の軽減を図ることができる。</p> <p>そこで区では、区立小・中学校、幼稚園、保育園、児童館、高齢者・障害者施設等、災害時要援護者の方々が日頃から利用する施設に「緊急地震速報」の受信機を導入する。</p>

4-1-①

件 名	災害時要援護者対策の強化
予 算 額	34,927千円
主 旨	<p>災害発生時に自力で避難することが困難な「災害時要援護者」については、的確かつ迅速に、安否確認、避難支援、救出・救助活動等を行う必要がある。</p> <p>そこで、一定の要援護者情報を掲載した「災害時要援護者名簿」を作成し、関係機関が共有するとともに、町会・自治会の住民防災組織で結成している「災害時要援護者サポート隊」に対して、資器材の支給など必要な支援を行うことにより、要援護者対策の一層の向上を図る。</p>

4-1-②

件名	住宅用火災警報器の設置助成
予算額	42,410千円
主旨	<p>近年、住宅火災による死者が増加する傾向にある。このため、消防法等では、既存住宅について平成22年4月1日から住宅用火災警報器の設置が義務化されることとなった。このことを受けて、区では、災害時要援護者である高齢者と障害者の住宅に住宅用火災警報器を設置し、火災発見の遅れによる逃げ遅れを防ぐとともに、区民向けに住宅用火災警報器の普及啓発を図る。</p>

4-1-③

件名	建築物耐震改修等の支援
予算額	32,171千円
主旨	<p>平成7年に発生した阪神・淡路大震災を契機に、本区では同年10月から耐震診断の助成事業を実施してきた。さらに平成18年1月からは、同地震において、死者の約8割が建築物の倒壊等による圧迫死によるものであったことや、死者の半数以上が60歳以上の高齢者であったことなどから、木造家屋が密集する本区の地域特性を踏まえ、市街地の安全性確保を図り、震災による甚大な被害から区民の生命・財産を守るために木造住宅の耐震改修助成事業を開始したところである。この事業は、実施後3年を目途に所要の見直しを図ることとしていたため、平成20年度からは、より分かりやすく、利用しやすい制度とする。</p>

4-1-④

件名	地域防犯活動の支援及び環境改善
予算額	30,100千円
主旨	地域防犯力を高め安全で安心なまちづくりを推進するためモデル地区を指定し、区、東京都、警察及びモデル地区内の学校、町会・自治会等が協働して、地域の住民による自主防犯活動を促進し、防犯意識の向上を図る。

件名	子どもショートステイの実施
予算額	1,359千円
主旨	<p>保護者が疾病や冠婚葬祭、出張、育児不安などの理由により一時的に児童を養育することが困難になった場合、短期間児童養護施設に養育を委託し、児童の福祉の向上と家族の精神的・身体的な子育ての負担の軽減を図る。</p>

4-2-①

件名	在宅子育てママ救急ショートサポートの実施
予算額	4,400千円
主旨	<p>在宅子育て支援の拠点施設として、平成19年4月に開設した「墨田区子育て支援総合センター」(京島1-35-9-103)では、急な病気や体調不良により子育てができない在宅子育て家庭の母親を支援するため、平成20年度から「救急ショートサポート事業」を実施する。</p> <p>核家族化や地域の人間関係の希薄化など、子育て家庭を取り巻く環境が変化する中で、安心して子育てができる環境を整備するため、区と区民・NPO法人などが協働で、地域の子育て家庭を支援する体制づくりの強化を図る。</p>

4-2-②

件名	保育園・私立幼稚園のオートロック設置
予算額	38,640千円
主旨	<p>園内に侵入しようとする不審者から子どもたちを守るため、区立・私立保育園と私立幼稚園にオートロックを設置する。</p> <p>これにより、施錠の徹底が図られ、不審者の侵入を防ぐことができるほか、園児が不用意に園の外に出てしまうことを防止することができる。</p>

4-2-③

件名	障害児デイサービス施設の整備
予算額	86,295千円
主旨	<p>心身障害児の療育施設の利用希望者は年々増加しており、既存の1施設（すみだ福祉保健センター《向島3-36-7》内、幼児療育のための施設「みつばち園」）では、全ての利用希望者を受け入れることが困難な状況にある。</p> <p>また、近年急増している「発達障害」など、障害の多様化・重度化・重複化が進む中、個々の発達段階や障害特性に合わせた、よりきめ細かな対応や就学後の支援策等を希望する声も増えてきており、新たな課題への取組も強く求められている。</p> <p>このため、平成22年4月を目途に旧文花小学校校舎（文花1-32-9）南棟1階を改修し、「障害者自立支援法」に基づく区内2か所目の障害児デイサービス施設の整備を行い、より多くの障害児に適切な療育サービスを提供できる体制づくりをめざす。</p>

4-2-④

件名	障害者生活介護施設の整備
予算額	136,385千円
主旨	<p>重度の心身障害者が地域社会の一員として生活するためには、日中活動の場となる生活介護施設が不可欠である。現在、区内には、重度知的障害者対象の施設「はばたき福祉園」（向島3-36-7）と重度身体障害者（重複障害含む）対象の施設「亀沢のぞみの家・肢体不自由児者通所訓練所」（亀沢4-18-11）の2施設があるが、障害者の障害特性には個人差があり、個々の施設利用者のニーズに十分対応できていない。</p> <p>このため、平成22年4月を目途に旧文花小学校校舎（文花1-32-9）南棟1階を改修し、「障害者自立支援法」に基づく障害者生活介護施設の整備を行い、重度障害者の社会的自立を支援する。</p>

4-2-⑤

件名	妊婦健診の公費負担の充実
予算額	210,335千円
主旨	<p>区では、現在、妊婦の健康リスク（性感染症や生活習慣病等による影響）を把握し、安全な出産へと導くため、妊婦健康診査に要する費用のうち、2回分（前期・後期）と超音波検査（35歳以上）を1回分それぞれ公費負担している。</p> <p>平成20年度からは、妊婦健康診査の公費負担を拡大することにより、これまで以上に安全な出産支援と子育て世帯の経済的負担の軽減を図る。</p>

4-2-⑥

件名	肺炎球菌のワクチン予防接種の助成
予算額	23,506千円
主旨	<p>肺炎球菌は、免疫力が弱くなった高齢者に肺炎をはじめ、いろいろな疾病を引き起こす原因となっている。しかし、ワクチンを接種することにより、肺炎球菌が引き起こす肺炎、気管支炎等の感染症の予防に効果があることも認められている。</p> <p>このため、平成20年度から免疫力が弱くなっている65歳以上の高齢者に対して、肺炎球菌ワクチン予防接種の公費負担を実施する。</p>

4-2-⑦

件名	在宅リハビリテーション基盤強化
予算額	9,926千円
主旨	<p>現在、医療機関で回復期リハビリテーション（リハビリ）を受けた後、さらにリハビリを継続（維持期のリハビリ）すれば、身体的に効果的な回復の見込みがありながら、医療保険が適用されるリハビリ算定日数上限に達している等の理由でリハビリを十分に受けることのできない区民がいる。</p> <p>このため、維持期のリハビリを必要とする区民に対して、安心していきいきと自立生活が送れるよう、在宅でリハビリを受けることのできる支援システムを23区に先駆けて創設する。</p>

4-2-⑧

件名	幼小中一貫教育の推進
予算額	11,078千円
主旨	<p>学校教育においては、いわゆる「小1プロブレム」「中1ギャップ」といった問題の発現など、学校間のつなぎ目において、児童・生徒が学習や学校生活面で不応を起すなどの問題が生じている。</p> <p>これらの問題に対応するためには、幼児期から小学校、中学校を円滑に接続し、一人ひとりの発達に応じたきめ細かい教育を系統的・計画的に行うことが有効である。このため、墨田区では、平成18年度から「幼小中一貫教育モデル地域」(平成18年度～19年度の2年間)を中心に、幼児期から小・中学校の連携強化の方策についての研究に取り組んできた。</p> <p>これを受けて、平成20年度では、これまでのモデル地域等における研究成果を踏まえた幼小中一貫教育を実践するため、「パイロット地域」(2地域)を指定し、小中連携コーディネーターを配置することにより、より具体的な取組を展開する。</p>

4-3-①

件名	学力向上「新すみだプラン」の推進
予算額	47,349千円
主旨	<p>現在児童・生徒に、自ら学び主体的に問題を解決するなどの「確かな学力」を身に付けてもらうことが、重要な課題となっている。墨田区では、平成16年度から「開発的学力向上プロジェクト」を立ち上げ、児童・生徒を対象に「学習状況調査」を実施し、その結果に基づき学力向上のための授業改善等を行ってきた。また、平成17年4月から実施した、学力向上「新すみだプラン」に基づき、「すみだ教育研究所」を設置し、「開発的学力向上プロジェクト」の一層の充実や「土曜補習教室」などを実施するとともに、家庭学習の支援にも力を入れてきたところである。これらの取組により、本区の児童・生徒の基礎学力向上に一定の効果が現れてきているが、同時に、応用力・活用力に課題があることも明らかとなった。</p> <p>そこで、20年度は、児童・生徒の応用力・活用力の向上を最優先課題とするとともに、基礎学力の更なる定着を図っていく。</p>

4-3-②

件名	校舎・屋内運動場の耐震化
予算額	965,295千円
主旨	<p>学校施設は、児童・生徒が1日の大半を過ごす「生活の場」とすると同時に、大震災などの際に、地域住民が寝泊りする緊急避難場所の役割を果たすことから、安全性を備えていることが最優先的課題である。そこで、小中学校の校舎・屋内運動場の耐震度・老朽度に応じて改修・改築し、耐震補強を順次実施する。</p>

4-3-③

件名	学校施設の整備
予算額	1,620,415千円
主旨	<p>学校施設は、児童・生徒にとって1日の大半を過ごす「学習・生活の場」である。 そのため、墨田区では、児童・生徒が充実した学校活動を展開できる施設環境を備えるとともに、豊かな人間性を育むのにふさわしい快適で十分な安全性や衛生的な環境を備えた学校施設を整備していく。</p>

4-3-④

件名	地球温暖化対策地域推進計画の実践
予算額	15,930千円
主旨	<p>区では、深刻化している地球温暖化を防止することを目的として、現在「墨田区地球温暖化対策地域推進計画」を策定中である。この計画に基づき平成20年度からは、区民、事業者、区の協働による様々な二酸化炭素（CO₂）削減のためのプロジェクトを展開する。区は区民、中小企業者及び学校への支援を始めとした各分野のCO₂削減活動を支援する。</p> <p>また、まちづくり、交通システム、人づくりなどあらゆる分野でCO₂削減が進むように、各種の事業や指導を進めていく。</p>

4-4-①

件名	地球温暖化防止設備導入助成制度の新設
予算額	10,000千円
主旨	<p>区では、現在策定中である「墨田区地球温暖化対策地域推進計画」に基づき、区内から排出される二酸化炭素（CO₂等）を削減するため、平成20年度から、区内にある住宅・事業所の所有者に対して、太陽光発電や給湯設備の高効率化等、電気・ガス等の使用量を削減できる設備の導入を支援する助成制度を新設する。</p>

4-4-②

件名	地球温暖化防止区民イベントの開催
予算額	1,000千円
主旨	<p>区では、現在策定中である「墨田区地球温暖化対策地域推進計画」に基づき、平成20年度から様々な二酸化炭素（CO₂）削減のためのプロジェクトを展開する。このプロジェクトのうち区民全般を対象として展開する「みんなで取り組むCO₂削減区民運動」の趣旨を広く区民にPRし、CO₂削減へのきっかけにするためのイベントを開催する。</p>

5 《区民と区が協働で「すみだ」をつくる》

件名	協治（ガバナンス）の仕組みづくり
予算額	14,407千円
主旨	<p>墨田区では、区民、地域団体、NPO、企業など多様な主体と連携して協治（ガバナンス）によるまちづくりを推進している。協治（ガバナンス）には、地域の課題を見つける「知る力」、仲間を集める「つながる力」、できることから始める「行動する力」の「3つの力」が必要であることから、この「3つの力」を高め、まちの魅力や地域力を向上させる取組を実施する。</p>

5-①

件名	統合新図書館の整備
予算額	36,000千円
主旨	<p>これまで図書館は、図書の貸出を中心としたサービスを提供してきたが、区民の生涯学習支援の充実やビジネス支援、子育て支援をはじめとする課題解決支援機能の充実、電子図書館化への対応、子ども読書活動の推進等、更なる図書館サービスの充実が求められている。</p> <p>こうしたニーズに的確に応え、新たな時代に対応したサービスの提供を可能とするため、あずま図書館と老朽化の著しい寺島図書館とを統合して、新図書館を整備する。</p>

5-②

6 《新タワー建設にあわせて実施する主な事業》

件名	北斎館（仮称）の整備
予算額	74,384千円
主旨	<p>世界的に有名な画家 葛飾北斎（1760～1849年）が本所割下水（現在の墨田区亀沢）に生まれ、90年の生涯のほとんどを墨田区近辺で過ごしたことから、葛飾北斎の偉業を区民の誇りとして永く顕彰するとともに、新たな文化創造の拠点ともなる「墨田区北斎館（仮称）」の開設に向けて準備を進めていく。この施設は、2011年度中に完成する新タワーとともに、本区が進める新たな国際観光都市づくりの新たな観光の核となるものである。</p>

6-①

件名	環境ふれあい館（仮称）の整備
予算額	22,000千円
主旨	<p>環境への負荷を減らし、よりよい環境の創造をめざし、墨田区から地球環境問題を解決していくため、子どもから大人までを対象にしたユニークで総合的な環境体験学習施設を押上・業平橋地区に整備する。同地区には新タワーの建設が予定され、完成後には、約500万人もの来街者が予想されていることから、「環境ふれあい館（仮称）」を世界に向けての環境情報発信基地と位置づけ、これらの来街者をはじめ、多くの方に向けがえのない生命と地球の保全について学ぶ機会を提供する。</p>

6-②

件名	観光プラザ（仮称）の整備
予算額	6,000千円
主旨	<p>墨田区には江戸時代から継承する伝統文化をはじめ銘品名店や名所旧跡が点在し、それらは観光のまちづくりを推進する本区にとって重要な観光資源となっている。</p> <p>新タワー建設に伴い、国内外から訪れる観光客に新タワーだけでなく、広く区内を回遊し、これらの観光資源を体感・体験していただくために、新タワー街区内に区内観光の玄関口の機能を持つ観光プラザを整備する。</p>

6-③

件名	大横川親水公園の歩行者空間再整備
予算額	84,000千円
主旨	<p>大横川親水公園は、錦糸町地区、両国地区から新タワーの街区に通じる重要な歩行者周遊ルートに位置づけられる。しかし、平成5年に開園した同公園は、園路をはじめとする施設の老朽化が進んでいる。</p> <p>そこで、新タワーの建設に合わせ、園路等の改修やバリアフリー化、外国語を表記した案内看板等の再整備を行い、区民はもとより来街者が安全・安心に散策を楽しめるような歩行者空間とする。</p>

6-④

件名	新タワー周辺主要道路の景観整備
予算額	43,593千円
主旨	<p>新タワーの完成により、多くの来街者が訪れることになり、周辺道路は観光バス等の大型車をはじめとして車両通行量の増加が予測される。</p> <p>そこで、車道の耐久性向上を図るとともに、観光を楽しむ来街者の回遊性を高めるため、電線類の地中化を図るなど道路の景観整備を行う。整備箇所は、言問通り、桜橋通り、(仮称)新タワー通りの3路線である。</p>

6-⑤

件名	吾妻橋防災船着場の整備
予算額	14,000千円
主旨	<p>現在、区役所脇の隅田川沿いに設置されている吾妻橋防災船着場は、平成2年の区役所庁舎建設に合わせ設置されたものであるが、災害時に大型物資輸送船等が着岸するためには規模が小さく、経年(設置から18年が経過)による劣化も進んでいることから改修が必要となっている。</p> <p>また、新タワーの建設に合わせ、隅田川を軸とした地域連携の促進や回遊性の向上を図るため、吾妻橋防災船着場を平常時においても定期観光船が発着できる「観光用船着場」として整備する。</p>

6-⑥

件名	北十間川水辺空間の整備
予算額	35,035千円
主旨	<p>新タワーの建設を機に、江東内部河川の水辺空間を活かしたまちづくりと観光の推進を図るため、平成18年度に「北十間川水辺活用構想」を策定した。この構想に基づき、新タワー街区の南側を流れる北十間川（東武橋～京成橋区間）を新タワー水辺拠点ゾーンとして、新タワー街区と浅草通りを結ぶ人道橋の整備をはじめ、歩行者デッキ、船着場、水質浄化施設などの北十間川の河川環境整備を行う。また、南側に隣接する道路についても、景観向上及び歩行者に配慮したコミュニティ道路の整備を実施する。</p>

6-⑦

件名	景観まちづくりの推進
予算額	8,000千円
主旨	<p>墨田区では、平成16年にまちの景観を整えるため、建物の最高高さを制限する高度地区の指定を行ったが、指定の無い地域において突出した高さの建物が建築され周辺の景観や住環境に悪影響を与える状況が生じてきている。</p> <p>このような中で、景観形成に対する住民の関心の高まりから平成17年6月に景観法が施行され良好な景観形成のための誘導・規制が明確に位置づけられた。また、現在策定中の「景観基本計画」を踏まえ、新タワーによる新たな景観の創出や歴史・文化の資源を活用した景観形成、観光スポットや地域のまちづくりと連携した景観形成に向けて、新たなすみだの都市景観のあり方や方向性を検討し、具体的な誘導策を講じる必要がある。そのため、平成20年度には景観行政団体へ移行し、景観条例の制定と景観計画の策定を進めていく。</p>

6-⑧

件名	区内循環バス導入に向けた調査
予算額	8,000千円
主旨	<p>新タワーは、墨田区のまちの姿や区民の暮らしに大きな影響をもつことから、区としてもこの好機を最大限活かすための計画的・戦略的なまちづくりを進めている。その取り組みの一つとして、観光拠点を回遊する周遊バスを導入するための交通システムを検討し「住んでよく、訪れてよいまちすみだ」の実現を図る。</p>